



時間の流れの 違いを感じました。

私は、パナマ共和国ノベグレ自治区ビシーラ（首都パナマから約300km）へ「村落開発普及員」として赴任し、会社などの組織の運営方法を指導してきました。運営方法と言っても、具体的には現金の取り扱い方や、仕事の作業日程の作成など、一般事務の基礎を教えていたのですが、あまりにも水準が低いためにどこから始めてよいのかわかりませんでした。

開発途上国では、現金の必要性や取り扱いの方法を理解していない人が多く、また時間を割り当てて集団で定期的に仕事をするという習慣がないのです。私が赴任した村も、食料がなくなるとそれぞれが勝手に仕事を行うという状況でした。

村では米の栽培が行われていました。米はパナマの主要農作物の一つで、日本と違い焼畑農業という農業方法が行われているのが特徴です。米の栽培方法も日本とは異なり、種もみを直接畑にまいて育てる「直播（じかまき）」という方法で栽培するのです。収穫時には、私も現地の仲間とともに米袋運びました。

言語はパナマの公用語であるスペイン語でしたが、コミュニケーションには大変苦労しました。パナマへ赴任する前にスペイン語の訓練期間があり、そこで相当な時間の勉強をしたのですが、使いこなせるようになるまでには1年くらいかかりました。スペイン語のほかにも現地の言葉があるのですが、その言葉は全く理解できませんでした。

パナマで強く感じたことは、日本とパナマの時間の流れるスピードの違いです。最初はパナマのゆっくりとした生活スピードに戸惑いましたが、自分がブレーキをかけてスピードを緩めていけば慣れてくるということを理解しました。

これからは芽室町に住み、父の仕事を手伝えることとなります。今までのいろいろな経験を生かして一生懸命頑張っていきます。



松久大樹（まつひさ たいき）

高校を卒業後、東京の大学へ進学し平成7年JA中央会に就職。平成12年に海外青年協力隊参加のため退職。同年7月パナマへ赴任。今年、2年間の任期を終えた。昭和47年生まれ。30歳。一心町在住。